

在の岡山県南部の平坦地(岡山平野)は、そのほとんどが干拓地である。中国山地から河川の流れにより運ばれた大量の土砂が堆積し、沿岸付近は次第に浅くなり、干潮時には広大な干潟が沖合まで広がるようになっていた。歴史を遡ると、寿永3年(1184年)の源平藤戸合戦では、源氏の佐々木盛綱が海を馬で渡るといふ奇襲作戦で平家軍に勝利した。このことから、当時から岡山県南部の沿岸にはかなり浅くなっている場所があったようである。

時代は下って、江戸時代になると徳川幕府は年貢の増収と公共事業による雇用確保のため、開拓事業を奨励した。江戸中期以降、岡山県南部でも干拓が広く行われるようになった。郷土誌である「福田町誌(昭和33年発行)」によると、試験地が立地する場所は嘉永5年(1852年)10月末に干拓工事が完了した。ペリー提督率いるアメリカ海軍東インド艦隊(いわゆる黒船)が浦賀沖に現れる9か月前のことであった。

高低差がほとんどない干拓地で水を効率的に海へ放出するため、用水路が碁盤の目のように計画的に設置され、それに沿って道路も整備された。土地は60間(約109m)四方を1区画として整備されている。このときに入植したご先祖様から数えて、私は6代目となる。

(2) 開設

試験地は平成22年4月に、近畿中国四国支部内で8番目の試験地として設置された。このとき県内には既に岡山試験地があり、平成16年から岡山市尾上地区で熊代幹夫主任が適2試験を中心に幅広く精力的に実施されている。これより前、昭和58年～平成13年には岡山市福田地区で中野幸彦主任が適2試験を実施されていた。

(3) 気象条件

倉敷市は温暖な瀬戸内海式気候で、年間を通じて天気や湿度が安定しており、降雨日数も梅雨を除いて少ない、いわゆる「晴れの国」である。また、一級河川である高梁川による豊富な水資源の恩恵により、水不足になることはほとんどなく、災害も少ない。冬には積雪することもあるが、大雪になることは稀である。

(4) 圃場条件

高梁川からの堆積物に由来する干拓地であり、試験圃場は沖積・埴壤土(減水深0.5cm/日)である。農業用水についても高梁川からの豊富な水の恩恵で、水田への入水に困ることはまずない。私が記憶している限り、当地域での水不足・濁水は平成6年の1回だけである。

水稻の作期は6月中下旬の移植であり、全国的にも最も遅い地域である。これは、現在では少なくなったが岡山県南部には麦の作付けがあり、その水利慣行の名残から当地域では6月上旬にならないと用水路に水が流れて来ないからである。試験圃場では周りとの作業の競合を避けるため、6月20日を移植の基準日としている。

雑草の自然発生は極めて少ないため、全草種について種子の播込、塊茎の埋込で試験を実施している。試験を進めるにつれ、前年の落下種子からの発生が僅かながらみられるようになってきた。

(5) 施設

農家である実家の通常の施設と機械を利用している。モットーは「最小の投資で、最善の作業効率を」であり、なるべく既存のものを使っている。事務所は住居の一室(写真-3)、作業場と道具・資材置き場は車庫(写真-4)を利用している。薬剤調製および調査を行う作業室には

ユニットハウス（写真-5）を利用しており、これだけ新規に購入設置した。



写真-3 試験地事務所



写真-4 作業場と道具・資材置き場



写真-5 作業室

3. 試験地の取り組み

試験地では適1試験を中心に、適2試験、作物残留試験、生育調節剤試験を行っている。

(1) 適1試験

近畿中国四国地域ではこれまで滋賀試験地で適1試験が行われていたが、平成22年度の試験地開設とともにこちらで実施することとなった。

試験はプラスチック製ダンボール（通称プラダン）の1㎡枠を利用して試験区を設置している（写真-6、写真-7）。適1試験は効果と薬害を別々の枠で調査するため、1剤当たりの試験区数が多くなる。試験区の設置・観察・調査・取りまとめには未だに労力を要している。



写真-6 適1試験圃場（効果区）



写真-7 適1試験圃場（薬害区）

(2) 適2試験

アゼナミシートを用いて試験区を設置している(写真-8)。また平成24年度には直播試験も行い、全国的に話題となっている「鉄コーティング湛水直播」での実施を初めて試みた。



写真-8 適2試験圃場(普通枠)

(3) その他

平成23年度から水稲における残留試験をGLPで、また平成24年度には生育調節剤(水稲における倒伏軽減剤)の試験を行った。

4. その他

試験圃場には大小数多くの枠が整然と並ぶため、試験開始時には周囲の方からは奇異な目で見られることもあった。「魚の養殖ですか?」と聞かれることもあった。試験研究だということをその都度丁寧に説明することを心がけているため、最近ではだいぶ理解されてきたのではな

いかと感じている。

試験の実施にあたっては、岡山試験地の熊代主任に多くのご教示をいただきながら進めている。熊代主任の発想力・発明力・実行力には素晴らしいものがあり、常にいい刺激を受けながら、試験に関する多くのアイデアを有効活用させていただいている。後日、本誌において岡山試験地の紹介があるとお聞きしているので、個々の内容についてはそちらでお願いすることにする。

試験地開設からまだ3か年しか経っていない。農業試験場では適2試験を担当していたが、新たに試験ができるように施設や道具を整備しようとすると多くの問題が出てきた。これらを一つ一つ解決していき、更なる改善を模索しながら、未だ手探り状態で試験を進めている。

5. おわりに

平成24年10月21日に急逝された近畿中国四国支部の富久保男支部長にはたいへんお世話になりました。私が平成7年に岡山県に入庁し、農業試験場へ配属されたとき、作物部の部長として多くのご指導をいただきました。私が家庭の事情で県を退職することについて悩んでいた際にも親身になって相談に乗っていただき、御尽力くださったお陰で、植調協会でお世話になることができました。あまりに早すぎる別れを悼み、この紙面をお借りして感謝の意を申し上げます。